

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1325
2. 授業担当教員	田口 雅夫		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	春期 (伊勢崎) 秋期 (池袋)
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① ピアノ奏法は、個人差があるので苦手な学生は出題された課題をよく練習しておくこと。 ② 弾き歌いは自分の演奏レベルを確認できるので、必ず歌うようにすること。 ③ 高度な理論は必要ありませんが、指導技術として基礎的な内容はよく理解しておくこと。 ④ まとめとして、場慣れの意味で全員の前での演奏に取り組む。 ⑤ 既にピアノの技術を身につけている学生には、その程度に合わせた課題を提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<ol style="list-style-type: none"> ①「教員養成課程 小学校音楽科教育法」 ②五線ノートは様々な種類があるので、必要な時期に指示します。 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができるようになったか。 2. グループによる「アンサンブル」や、音楽づくりに積極的に取り組んだか。 3. 音楽の基礎理論 (楽典) を理解し、説明できるか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への取り組み及び意欲 総合点の 40% 2. 実技発表 総合点の 40% 3. 音楽理論の理解 総合点の 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演奏技術向上のためには、一度に長い時間の練習ではなく、毎日少しの時間でも取り組む方が効果的です。 2. 焦らず、こつこつと練習を積み上げることが大切です。出来るか否かではなく、努力することが必要です。 3. 少しピアノを弾ける学生は、その能力を上手く使う方法を習得しましょう。 4. 音楽の技術的なことで (ピアノ・歌) 不安や心配のある学生は遠慮なく申し出ること。心配は要りません。 5. オンライン授業が想定されますが、キーボードの練習方法について、(紙鍵盤を含む) 鍵盤ハーモニカ・その他が写せるように工夫してあれば細かいアドバイスができます。 6. 授業中に関して以下の事については厳しく注意します。 <ol style="list-style-type: none"> (I) 音楽室使用規則を守ること (飲食・楽器の扱い方等) (II) スマートフォン等を使用しない。 (III) 授業中の私語は、真面目に受講している者にとって迷惑です。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間を活用して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、自己紹介、音楽学習歴調査、音楽理論に対する知識調査、音楽理論で使用するプリント配布。教則本のチェックシートについての説明。	事前学習	バイエルを各自の能力に沿って予習しておく。
		事後学習	音楽に対する自分の経験の有無・能力を確認しておく。
第 2 回	1. 音楽理論 譜表・音符・休符・音名階名について。 2. ピアノ奏法実習① バイエル教則本より選曲・演奏。	事前学習	音楽理論内容の確認。各自に指示されたピアノ楽曲の予習
		事後学習	弾いているピアノ曲を階名唱してみる。学習したピアノ曲を練習しておく。指番号等基本的な楽譜の読み方も実践してみる。
第 3 回	1. 音楽理論 リズムと拍子・リズム唱について。 2. ピアノ奏法実習② バイエル教則本より選曲・演奏。	事前学習	音楽理論内容を復習しておく。生活の中に感じられるリズムに意識をもとう。
		事後学習	現在練習しているピアノ曲、その前後の曲を弾いてみる。
第 4 回	1. 音楽理論 変化記号 (臨時記号・調号) について。 2. ピアノ奏法実習③ バイエル教則本より選曲・演奏	事前学習	練習してきたピアノ曲のリズムをリズム唱したり手で叩いてみる。
		事後学習	ピアノ曲の苦手な箇所を確認し、部分練習を行う。
第 5 回	1. 音楽理論 簡単な楽語の理解。 2. ピアノ奏法実習④ (歌唱も含む) バイエル教則本より選曲・演奏	事前学習	理論についての疑問があればメモしておくように。
		事後学習	次の練習曲に取り組む。楽譜上にある全ての中に不明なものは無いか探してみる。

第6回	1. 音楽理論 音程・和音について 2. ピアノ奏法実習⑤(歌唱も含む) バイエル教則本より選曲・中間演奏発表	事前学習	発表する曲をスムーズに弾けるように、記号の確認もしておく。
		事後学習	自分の演奏技術の確認及び復習。大きな声で歌唱に慣れてみよう。
第7回	1. 音楽理論 コードネーム 2. ピアノ奏法実習⑥ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	出来る限り弾き歌いに取り組む。声の大きさも確認しておく。
		事後学習	コードネームの付いている楽譜を見て弾いてみよう。
第8回	1. 音楽理論 和音の効果について。 2. ピアノ奏法実習⑦ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	小学校で取り上げられている歌で、知っている曲を思い出しておきましょう。
		事後学習	和音については理解しにくいので、理論の復習が不可欠です。
第9回	1. 音楽理論 いろいろな伴奏形について。 2. ピアノ奏法実習⑧ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	バイエル教則本より、いろいろな伴奏形を見つけておく。
		事後学習	同じ曲をいろいろな伴奏形で弾いてみる。
第10回	1. 音楽理論 2. アンサンブル①使用楽器について。 3. ピアノ奏法実習⑨ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	小学生で経験したアンサンブルを思い出してみる。
		事後学習	楽器の奏法について確認をしておく。
第11回	1. 音楽理論 2. アンサンブル②アンサンブルの編曲法。 3. ピアノ奏法実習⑩ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	編曲する曲を決めておく。(曲の感じは自由で良い)
		事後学習	各自、頭の中で編曲した音をイメージしてみよう。
第12回	1. 音楽理論 2. アンサンブル③グループで編曲をしてみる。 3. ピアノ奏法実習⑪ ひきうたい発表曲の選曲と準備	事前学習	初歩的な質問でも構いません。質問を探してみてください。
		事後学習	次回の発表に向けてグループで協力をし、練習をしておく。
第13回	1. 音楽理論 2. アンサンブル④グループ発表・ディスカッション 3. ピアノ奏法実習⑬ 発表の準備	事前学習	発表の前に必要な確認をしておく。発表までの自己反省の確認をしておく。
		事後学習	アンサンブルについての学習成果確認。ピアノ発表は暗譜を意識して練習する
第14回	1. ピアノ奏法実習発表	事前学習	歌うテンポが適切であるか確認する。教室で自分の歌声がどこまで届いているかを確認する。
		事後学習	自己評価をする。
第15回	音楽理論・ピアノ奏法についての総括(質問)	事前学習	質問事項をまとめておく。
		事後学習	授業で学習したことを確認する。